



記者発表資料

令和2年9月11日（金）

産業部おかえりモネプロジェクト推進室

担当：千葉・齋藤（内線277）

2021年度前期NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の 共演者が発表されました！

- 2021年度前期NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の出演者について、これまでヒロイン役の清原果耶さんのみが公表されていたところですが、本日NHKから共演者が発表されましたのでお知らせします。
- 詳細は、NHK発表の別添資料を御参照ください。

気仙沼市長 菅原 茂 コメント

NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台に本市が選ばれ、ヒロイン「永浦百音」役として清原果耶さんが発表されてから3か月余り。彼女を取り巻く出演者の方々にどんな名前が挙がるのか、「朝ドラ」ファンの一人として楽しみに待っていました。

日本を代表し宮城にもゆかりのある方もおり非常に豪華な顔ぶれがヒロインを支えてくれることを知り、「おかえりモネ」への期待感がますます高まっているところです。また、今後も更なるキャストがNHKから発表されるかと思いますが、引き続き楽しみにしています。

日本の朝を代表するドラマになるよう、本市としても引き続き収録支援に全力を傾けてまいります。市民の皆様には、本作の成功と本市の全国的なPRに向け、引き続き御協力をお願いいたします。

2021 年度前期連続テレビ小説

「おかえりモネ」

新たな出演者の発表について

2021 年度前期放送の連続テレビ小説第 104 作「おかえりモネ」は、「海の町」宮城県・気仙沼に生まれ育ち、「森の町」同・登米(とめ)で青春を送るヒロインが、“気象予報”という「天気」とことん向き合う仕事を通じて、人々に幸せな「未来」を届けてゆく、希望の物語です。

このたび、新たな出演者の方々が決まりましたので、お知らせいたします。

清原果耶 ※既発表

ながうらももね

ヒロイン・永浦百音

1995 年生まれ。気仙沼湾沖の自然豊かな島で育った。明るく伸びやかな性格で、中学時代はアルトサックスに打ち込んでいた。思うところあって、高校卒業と同時に故郷と家族から離れ、登米市の森林組合で働き始める。そこで天気予報の可能性と魅力を知り、やがて気象予報士を目指してゆく。
※タイトルにある「モネ」は、百音（ももね）の愛称です。



◆新たな出演者決定を受けて／ヒロイン・永浦百音役 清原果耶さんコメント

錚々たるキャストの皆様とご一緒させて頂けることをとても光栄に思います。脚本を読む度に、安達さんの愛の詰まった物語に心を弾ませていましたが出演される皆様のお名前を耳にし出してから、より「おかえりモネ」の世界が鮮やかに色付きはじめました。百音としても、私自身としても感じ得るものがきっと有る出逢いと歩みになるのではないかと感じております。キャストの皆様と「おかえりモネ」の時間を共に過ごすことが出来る日々が待ち遠しいです。撮影はまだ少し先ですが、現場に染み渡る空気感をドラマを観て下さる皆様にお届け出来ますよう楽しく、健やかに、誠心誠意努めて参ります。

内野聖陽



ながうらこうじ 百音の父・永浦耕治

陽気で屈託ない、百音の父。実家の漁業を継がず、地元の銀行に勤める。若い頃はトランペット奏者としてならし、百音が音楽と出会うきっかけを作った。2人の娘のことが大好きで、故郷を離れて登米に暮らす百音が心配でしょうがない。妻の亜哉子に頭があがらない。

ヒロインの父親役を演じます。気仙沼の美しい海で育つ若者たちが悩み苦しみながらそれぞれの人生をみつめていく。でも、その親たちもかつては人生の道のりで沢山思い悩み、いや、親であるからこそ今も悩みながら人生を歩んでいるのでしょう。子供の成長に戸惑いながらも若者たちへの温かい視線を失わない、ちょっと鈍感で不器用な愛すべき父親を、気仙沼という海の町のヴァイタリティーの中で、明るく前向きに生きられたらと思っています。きっと、今の不安な時代に活力を与えてくれる作品になるに違いないと予感しています。ご期待ください。

鈴木京香

ながうらあやこ 百音の母・永浦亜哉子

仙台出身の元小学校教師で、生真面目な性格。耕治と結婚後は、島の人々の明るさと温かさにはれ込み、移り住んだ。今は義父の牡蠣養殖業を手伝いながら、亡き義母が切り盛りしていた民宿を再開できないかと思っている。登米で自分の将来を模索する百音を信じ、応援する。

「君の名は」から何年になるのでしょうか。ヒロインの母親役として連続テレビ小説に出演させていただけるのは本当にうれしく、感謝の思いでいっぱいです。皆さんと一緒に強い絆の家族となれるよう、私も励みます。そして、このドラマの舞台地が自分の故郷、宮城県であることも大変光栄に感じています。登米は子どものころに何度も訪れた場所です。どちらかというと宮城の山っ子の私、気仙沼の美しいけれど厳しい自然のなかでのロケと地元の方々との交流を心から楽しみにしています。



蒔田彩珠

ながうらみち 百音の妹・永浦未知

百音の2歳年下の妹。勉強が得意で、堅実に先を読んで行動するしっかり者。百音とは正反対の性格だが、昔から仲の良い姉妹だった。父と姉に代わり、自分が家業の養殖を担おうと、水産高校で勉強に打ち込んでいる。のちに水産試験場に就職。不器用で、意地っ張りな一面も。

今回おかえりモネで、素敵な家族の一員になれることがとても嬉しいです。未知は、やりたいことに対して真っ直ぐに突き進む百音を、本当は誰よりも応援したいと思っている心優しい子です。気仙沼の海の光や、登米の山の木漏れ日のように、何気なく過ごしている日常が輝いて見えてくる、そんな物語を、朝からお届けできたらいいなと思います。





藤竜也

ながうらたつみ 百音の祖父・永浦龍己役

実直で海をこよなく愛する、牡蠣養殖の名人。若い頃は遠洋漁業のマグロ船に乗っていたが、やがて養殖業に転向。その手間暇を惜しまない牡蠣づくりで、遠方から注文するファンも多い。寡黙で頑固だが心優しく、幼い頃の百音や未知に、海や森の豊かさを伝えていた。

「朝ドラ」はたくさんの方が楽しみにしている番組なので、呼んでいただいて、とても嬉しいです。視聴者の皆さんと一緒に、モネの成長を見守り、応援したいです。ロケ地の宮城の皆様、お世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

竹下景子

ながうらまさよ 語り&百音の祖母・永浦雅代

龍己の妻で、故人。生前は龍己の漁業を支えながら、自宅で民宿も営んでいた。愛情深く包容力のある人で、百音の同級生たちは今でも雅代を慕っている。病気で他界し、今は百音たちを見守りつづけている。

気仙沼は大切な場所です。母のような人がいるところ。この役を頂いた時、運命を感じました。モネの清原果耶さんを真ん中に愛しい家族になれますように。陸奥の人の温かさや優しさと強さを語りを通して伝えられればと思います。海の中から愛をこめて、応援よろしく願いします。



◆起用にあたって／制作統括・吉永証

幸せなことに、脚本の安達さんが紡ぐ温かい台本・人物を、魅力的に豊かに演じてくださる方々に、出演していただけることになりました。両親役の内野聖陽さんと鈴木京香さん、祖父母役の藤竜也さんと竹下景子さん、百音の妹役の蒔田彩珠さん、どなたも演技力抜群、役のイメージに本当にピッタリです。先日行ったヒロインの清原さんをはじめとした衣装合わせは、とても楽しくワクワク、私は気分が高揚して、体からアドレナリンが出っぱなしでした。出会った宮城の人たちに感じた“明るさと逞しさ”を、出演者の方々が、どんな風に表現されるか非常に楽しみです。皆さま、ご期待下さい！

【物語】

宮城県気仙沼湾沖の自然豊かな島で、両親・祖父・妹と暮らしていた永浦百音（ももね）。2014年春、高校卒業と同時に気仙沼を離れ、ひとり内陸の登米市へ移り住むことに。大学受験にことごとく失敗、祖父の知り合いで登米の山主である、名物おばあさんの元に身を寄せたのだ。将来を模索する百音は新天地で、林業や山林ガイドの見習いの仕事をはじめめる。

そんな百音に、ある日転機が訪れる。東京から、お天気キャスターとして人気の気象予報士がやって来たのだ。彼と一緒に山を歩く中で、「天気予報は未来を予測できる世界」と教えられ、深く感銘を受ける百音。「自分も未来を知ることができたら」。そして一念発起、気象予報士の資格を取ろうと猛勉強をはじめめるが、試験の合格率は5%。勉強が苦手な彼女はなかなか合格できず、くじけそうになるが、登米で地域医療に携わる若手医師や地元の人たちに支えられ、ついに難関を突破する。

上京し、民間の気象予報会社で働きはじめた百音は、この仕事を実に多岐に渡ることを知る。日々の天気や防災はもちろん、漁業、農業、小売業、インフラ、スポーツ、さまざまな事情を抱えた個人…天候次第で人の人生が大きく左右されることを痛感した彼女は、個性的な先輩や同僚に鍛えられながら、失敗と成功を繰り返し、成長してゆく。

……数年後の2019年。予報士として一人前となった百音は、大型台風が全国の町を直撃するのを目の当たりにする。これまでに得た知識と技術をいかし、何とか故郷の役に立てないかと思った彼女は、家族や友人が待つ気仙沼へと向かう決意をする――

安達奈緒子さんの脚本による、オリジナル作品です。

【放送予定】 2021年春

【制作スケジュール】 2020年秋ごろクランクイン予定

【スタッフ】 制作統括：吉永証 須崎岳

プロデューサー：上田明子 広報プロデューサー：川口俊介

演出：一木正恵 梶原登城 桑野智宏 ほか